

日曜研究室

技術的な観点から日常を綴ります

[xv6 #7] Chapter 1 – The first process

テキストの17ページ

本文

この章では、xv6が起動し始めてから最初のプロセスを生成するまでの間に、何が起きるのかを説明する。

その中で、かなり興味深い点として、カーネルがそれ自身とプロセス群のメモリをどうやって管理するか、がある。

プロセスの用途の一つとして、一つのコンピュータを共有する色んなプログラムを分離すること（例えばあるバグまみれのプログラムが他のプログラムを停止させないように）がある。

プロセスは、他のプロセスが読み書き出来ないメモリ領域やアドレス空間とともにプログラムを提供する。

プライベートなアドレス空間をプロセスに提供するするために、xv6がどうやってプロセッサのページングハードウェアを設定するか、どうやってプロセスのコードとデータを保持するメモリを割り当てるか、どうやって新しいプロセスを生成するか、をこの章では調べていく。

感想

Chapter 1のまえがきのような部分です。

短いので特に感想はアレです。

ソースコードリーディングと題しながらあまり読んでなくて申し分ないです。

次々々回にならないとコードを読む部分は出てこないっぽいです。

カテゴリー: 技術 | タグ: xv6 | 投稿日: 2012/2/13 月曜日 [<http://peta.okechan.net/blog/archives/1248>] |
